

# ファーストジェネレーションに優しいまちづくり

## First-Generation College Students Friendly Community Development

服部ゼミ Team タカラ

村瀬侑水<sup>1)</sup>、一条杏子<sup>2)</sup>

指導教員 服部南見<sup>3)</sup>

1) 創価大学 国際教養学部 国際教養学科

2) 創価大学 法学部 法律学科

3) 創価大学 学士課程教育機構

キーワード：ファーストジェネレーション、学園都市、教育格差、情報格差、経済的格差

### 1. はじめに

大学全入時代の到来やオンラインの大学の出現などにより高等教育を受けるための入り口のハードルは年々低くなっている。誰もが望めば大学に入学できる時代が近づく中、ファーストジェネレーションの存在が注目されている。ファーストジェネレーションとは両親が学位を持っていない、家族の中で初めて大学に行く学生のことを指す。彼らは、大学の文化になじみにくく、学業、精神、経済的なものなど様々な困難を抱えやすい。現在設立構想中のZEN 大学記者発表会でもファーストジェネレーションのサポートについて言及があった。学生都市である八王子市においても何らかの取り組みが必要である。

### 2. 現状分析

現状、ファーストジェネレーションは大学生活への適応において問題が起きる傾向がある。家庭の文化に大学進学者をサポートする体制が整っていないため、家庭内での疎外感やキャリアの形成に困難をかかえやすい。創価大学の事例には、大学生活への理解が十分に得られず家での手伝いを求められた、留学への同意が得られない等のケースがあった。このような不利な状況から、アメリカでは約33%のファーストジェネレーションが大学の中途退学を余儀なくされている。(Yee, 2016)。日本では退学率は高くない

が、ファーストジェネレーションが大学生活において困難に直面することは想像に難くない。

またファーストジェネレーションが抱える問題が及ぼす悪影響は、大学入学後からコミュニティに所属するまでの期間に顕著に現れる。入学前には、教科書の費用や具体的な授業内容など大学に関する情報にリーチすることが難しい。よって、他の学生と比べて経済的や制度的な面などで情報格差が生じることがある。このような状況下では、ファーストジェネレーションが学業や人間関係の構築に困難を抱えることが予想される。それに加え、生計維持者の学位の有無による収入格差で経済的負担が生まれやすい。昨年度に本学で実施したアンケートによると、学生のおよそ35%がファーストジェネレーションだとわかっている。八王子市全体でも少なくない数のファーストジェネレーションが存在すると考えられる。しかし、彼らに焦点を当てたサポートが十分に行われていない現状がある。そのため、そうした学生への適切なサポートが重要な鍵となる。

### 3. 課題設定

ファーストジェネレーションの概念の啓蒙活動、母数の大枠把握が必要である。また、新入生への情報共有のように、間接的な支援につながる、包括的なサポート活動を行うことが求められる。

#### 4. 提案

そこで我々は、①市による包括的なサポート、②市による入学直後の学生イベントの開催と大学の連携、③市が主体の、入学予定者を含む高校生が大学生とつながり、様々相談できるサービスの提供の三つを提案する。

①について、入学前のサポートが重要であり、その支援について提案する。第一に、ファーストジェネレーションの概要説明をはじめとした大学制度の説明パンフレットの作成である。また、大学コンソーシアム八王子加盟の25大学及び団体と繋がれる情報も含まれるものとする。これは直接情報を受け取れずとも、資料を見ることで情報へアクセスでき、実際の大学生とも連絡を取ることができる一つのツールとなりうる。この資料を見た大学生への概念の啓蒙に繋がると期待する。

第二に、ファーストジェネレーションは経済的な課題を抱えやすい傾向にある。そこで、一定以上の成績を修めたファーストジェネレーションへの給付金の創設を提案する。これにより、経済的負担を軽減させ、ファーストジェネレーションが潜在的に抱える学業的困難の解消に集中させる狙いがある。

第三に、大学コンソーシアム八王子加盟団体におけるファーストジェネレーションの実態調査を行うことも提案したい。日本において、ファーストジェネレーションという概念はまだ浸透していない。ファーストジェネレーションの人数が把握しきれていないため早急に調査を実施し、支援を行うべきである。調査を行うことで現状を把握し、状況に応じた支援の提案ができる。それにより、各大学の在学生在が、ファーストジェネレーションという概念を理解することにも繋がる。

②について第一筆者が、大学生が入学後すぐに友人を作れるようなイベントを行いたいと考えたところ、八王子市には「学生天国」と「ビッグウエスト学生フェスティバル」があることを知った。これらの日程の入学直後への移行を提案したい。これは、入学直後すぐ授業が開始され、頼れる友人もいないまま春学期をスタートするような学生が、他者とのつながりを作るきっかけにできると考えたからで

ある。既存の各大学の紹介ブースに、学生生活について相談できる機能を追加することにより、学生の不安解消にもつながる意義あるイベントになると考える。

③について、行政を介し大学進学が決まった高校生と大学生がマッチングできるサービスを提案する。市を通じて、各大学の学生はボランティアに登録し、高校生がマッチング相手を選ぶ。そこで、大学入学までの相談や、大学入学後に関わる悩みをナナメ上の存在としてサポートすることができる。このように、大学生と市が共同する機会を増やすことが、八王子市における学園都市のイメージを定着化させる要因になるだろう。

#### 5. 結論

これら三つの施策を行うことで、八王子に住む学生がより実りある学生生活を送ることができると考える。ファーストジェネレーションのようなマイノリティーにも寄り添った多様性あふれる学園都市として若者に売り込むことが、将来学生を集める際の一助になる。ファーストジェネレーションについては、日本ではまだ研究が進んでいないため、八王子市での調査をこれからの発展につなげていきたい。

#### 6. 参考文献

1. Yee, A. (2016). The unwritten rules of engagement: Social class differences in undergraduates' academic strategies. *The Journal of Higher Education*, 87(6), 831-858.  
<https://doi.org/10.1353/jhe.2016.0031>
2. 八王子市 八王子地域合同学園祭「学生天国」  
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/007/002/p032257.html>
3. 八王子市 学園都市ビジョン  
[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a951649/001/p031707\\_d/fil/gakuentoshi\\_vision\\_honpen.pdf](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a951649/001/p031707_d/fil/gakuentoshi_vision_honpen.pdf)